

ごはん・お米とぼく

長岡市立北辰中学校一年 平澤綾介

ぼくは、白いご飯が大好きです。

ご飯を食べるとなぜだかとても元気になります。ます。

ご飯が炊けた時、炊飯器のふたを開けると中から白い湯気と一緒にご飯の甘い匂いがして、とても幸せな気分になります。どんなに豪華なおかずより、炊きたての白いご飯の方が勝っているなと思います。

そんな大好きなお米を私の祖父は作っています。

朝早くから夕方遅くまで、毎日休まず米作りをする祖父の次女を小さい頃から見て育ちました。毎日当たり前のようにご飯を食べています。ぼくは、一生懸命米作りをする祖父に感謝しなけばいけません。

小さい頃、農作業をする祖父がトラクターや田植え機、コンバインを運転する姿がカッコよく見え、農作業車と一緒に乗せてもらっ

た時は、嬉しくて楽しかったことを今でも覚えています。田植えや稲刈りの時には、一緒に田んぼに行ったり、農作業の手伝いをすることもありました。しかし、大きくなるにつれて自分のやりたいことを先にやるようになり、農作業の手伝いをすることを減り、家にお米があることが当たり前のようになって、毎日一生懸命米作りをしている祖父への感謝の気持ちもなくなっているような気がします。

小学校五年生の時、授業でお米を育てました。田植えや稲刈りをしたり、お米のことを調べたり観察したりして、改めて米作りの大変さを学びました。

苗を植えただけでは美味しいお米はできません。

田植えをする前の土の管理、肥料や水の調整、草取り、害虫や病気の対策などお米ができるまでには、色々な作業があります。

雨の日も風の日も暑い日も、体調が悪い日

も米作りを休むわけにはいきません。  
 米農家の人たちが、一年かけて大切に育て  
 るからこそ、美味しいお米ができるのだと思  
 います。こんなにも大変な作業をして作られ  
 たお米は、一粒一粒無駄にすることなく大切  
 にしなければいけないと思います。  
 ご飯を食べる時、茶碗に米粒が付いて食べ  
 にくいことがあります。ぼくはよく母に「茶  
 碗に米粒が残っているよ。残さず食べなさい  
 い」と注意されます。面倒だから少しくらい  
 茶碗に付いていてもいいやという気持ちでい  
 ました。  
 でもこれは一生懸命お米を作ってくれた人  
 に対してとても失礼なことだと思い、最後の  
 一粒まで残さず食べるようになりました。  
 祖父が元気で米作りをしてくれるおかげで  
 、ぼくは毎日美味しいお米を食べることがで  
 きています。これから歳をとっていく祖父が  
 米作りをすることは、今まで以上に大変だと  
 思うので、ぼくにできる事を考え小さな事が

らでも米作りの手伝いができればいいなと思  
いました。

毎日の生活の中で、当たり前だと思っ  
てい  
ることを当たり前だと思わず、もう一度よく  
考えて見たいと思います。

そして人や物への感謝の気持ち  
を忘れない  
ようにしたいと思います。